

マドンナの宝石

ヴォルフガング・サヴァリッシュ
バイエルン国立歌劇場管弦楽団

PART 1

Side 1

1. 喜歌劇「軽騎兵」序曲 (スッペ曲)6'43"
2. 歌劇「ザンバ」序曲 (エロール曲)7'42"

Side 2

1. 歌劇「売られた花嫁」序曲 (スメタナ曲)6'29"
2. 喜歌劇「詩人と農夫」序曲 (スッペ曲)9'21"

Side 3

1. 喜歌劇「天国と地獄」序曲
(オッフェンバック曲)9'24"
2. 歌劇「マドンナの宝石」より間奏曲
(ヴォルフ=フェラーリ曲)3'52"

Side 4

1. 劇的物語「ファウストのこう罰」より「ラッツィ行進曲」作品24
(ベルリオーズ曲)4'29"
 2. 狂詩曲「スペイン」(シャブリエ曲)6'27"
- W/ペーター・ヴェブケ(チェロ・ソロ) ~ Side 2-2
W/ルイス・ミナル(ヴァイオリン・ソロ) ~ Side 3-1

PART 2 '88、11リリース予定

Side 1

1. 歌劇「ルスランとリュドミラ」序曲
(グリンカ曲)5'19"
2. 中央アジアの高原にて (ポロテン曲)7'21"

Side 2

1. 交響詩「禿山の一夜」(ムソルグスキー曲) 10'50"

Side 3

組曲「道化師」作品26 (カバレフスキー曲)

1. プロローグ0'58"
2. ギャロップ1'29"
3. 行進曲1'08"
4. ワルツ1'12"
5. ハントマイム1'41"
6. 間奏曲0'50"
7. 叙情的なシーン1'15"
8. ガヴォット1'34"
9. スケルツォ1'38"
10. エピローグ1'56"

「三つのオレンジへの恋」作品33より

(プロコフィエフ曲)

11. 行進曲1'34"
12. スケルツォ2'24"

Side 4

スペイン奇想曲作品34

(リムスキー=コルサコフ曲)

1. アルボラダ1'14"
2. 変奏曲4'27"
3. アルボラダ1'18"
4. シェーナとジブシーの歌5'09"
5. アストゥリアのファンダンゴ3'23"

W/ルイス・ミナル(ヴァイオリン・ソロ) ~ Side 4-1、3、4、5



for Daiichi KADEN
with best compliments
and wishes for
30th anniversary
Yours
Wolfgang Sawalitsch



1985.11.12
バイエルン国立歌劇場
BAYERISCHE STAATSOOPER
ミュンヘン・オペラ

創立30周年特別企画

ミュンヘンオペラ
サヴァリッシュ〜バイエルン国立歌劇場

来日公演ご招待(予告)

DAMオリジナルCDや今回のDAM45に登場の巨匠サヴァリッシュ率いるバイエルン国立歌劇場のミュンヘンオペラ引越し公演が今秋日本で行われます。第一家庭では、ヨーロッパ最古の歴史と伝統を誇るこの歌劇場の14年ぶりの来日公演の内、東京公演・4演目に、各20〜30名様をご招待する予定。さらに、『ベートーヴェン交響曲第9番「合唱付き」』には200名様をご招待の予定です。お申し込み方法、公演日、演目等は後日発表の予定です。どうぞご期待ください。

Das Bayerische Staatsorchester

1. Violine
Ingo Sinnhoffer・Luis Michal・Angel-Jésus Garcia・Eva Maria Nagora・Demetrius Polyzoides・Heinrich Köthe・Wolfgang Leopolder・Christa Milrad・Rudolf Klier・Erich Gargerle・Richard Oelkers・Elfriede von Noë・Nikola Nikolic・Hiroko Yoshida・Erich Plizka・Joachim Boruvka・Kai Bernhödt・Maria Moscher・Jan Gruszecki・Aldo Volpini・Rainer Sadlik・Annette Krusenbaum・Cäcile Sproß
2. Violine
Eberhard Soltau・Rudolf Schmidt・Katharina Lindenbaum・Schwarz・Adrian Lazar・Siegfried Schwarz・Heinz Werner・Heinz Deubel・Karl Mayer・Helmut Steger・Jürgen Frehde・Bernd Wunderlich・Brigitte Schmittke・Jiří Kveton・Susanne Langer・Marilyn-Marie Knuppel・Walter Probst・Ulrich Grubendorf・Klaus Huber・Eckhart Hermann
Viola
Fritz Ruf・Roland Metzger・Gerhard Breini・Wolfgang Reschke・Kurt Plank・Peter Blaumer・Josef Merki・Dittmar Machan・Hans Habig・Christian Radakovits・Friedbert Welscher・Trudie Horváth・Peter Kugler・Roland Krüger・Esa Kamu・Florian Ruf
Violoncello
Franz Amann・Peter Wöpke・Yves Savary・Wolfram Reuthe・Friedrich Kleinknecht・Hans Joachim

Link・Franz Krause・Alexander Teuner・Hans Dieter Kruse・Viktor Weywara・Karl Heinz Feit・Horstmar Probst・Wolfgang Bergius・Gerhard Zank
Kontrabaß
Christoph Möhle・Walter Götz・Alfred Nickel・Peter Schell・Wolfram Schmid・Pankraz Brendel・Heinz Peter Müller・Uwe Thielmann・Wolfgang Laupe
Harfe
Ingeborg Fauss・Michael Scheer
Flöte
Gernot Woll・Hermann Klemeyer・Wolfgang Haag・Klaus Holsten・Fritz Peter Ruppert・Wilfried Elstner
Oboe
Hagen Wangenheim・Simon Dent・Klaus König・Gottfried Sirotek・Bernhard Emmerling・Helmut Wollenweber
Klarinette
Ivan Mähr・Hans Schöneberger・Klaus Sass・Horst Schwantner・Hubert Hilser・Hartmut Graf
Fagott

Oswald Herget・Detlev Kühl・Klaus Botzky・Kurt Meister・Dietmar Heinrich・Dietrich Kallensee
Horn
Hans Pizka・Siegfried Machata・Karl-Heinz Fedder・Hans Walter Burkhardt・Rainer Schmitz・Volker Hardt・Wolfram Sirotek・Manfred Neukirchner・Rolf Jürgen Eisermann・Sebastian Huber
Trompete
Christian Böld・Gerd Zapf・Manfred Klette・Walter Maier
Posaune
Carl Lenthe・Robert Kamleiter・Franz Eder・Lothar Zirkelbach・Heinz Weiher・Richard Heunisch
Tuba
Rudolf Gura・Robert Tucci
Pauke
Siegfried Wolf・Gerd Quellmelz
Schlagzeug
Hermann Holler・Walter Haupt・Hugo Dümig・Ralph Peinkofer・Andreas Vonderthann



創立30周年記念盤

ごあいさつ

DAM会員の皆様には、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。弊社はお陰を持ちまして、本年11月、創立30周年を迎えることとなりました。30年間の長きに亘る皆様のご愛顧に、社員一同、心より御礼申し上げます。ここにお届け致しますDAMオリジナル・ディスクは創立30周年の感謝を込めて制作致しました記念盤でございます。既に、アナログ・ディスク、コンパクト・ディスクを合わせ、150タイトルを越えるソフトを制作し、毎回、会員の皆様を始め、業界各方面でも、そのクオリティの高さで注目を集めています。この創立30周年記念盤は、いわばこうしたソフトの集大成であり、さらに皆様にお喜びいただけるソフト作りの新たな一歩となるものであります。この一枚をご家族の皆様で心行くまでお楽しみ戴ければ幸いです。

さて、弊社は創業以来、特にオーディオ、ビジュアル分野に積極的に取り組み、単にAV機器の販売に止まらず、AVを豊かにお楽しみいただくための様々な催しをご提供して参りました。有名アーティストを招いての生録音会、コンサートへのご招待、数々のAVセミナーなど、その時々話題性や、新技術を逸早く検証する進取の気風に富んだ企画により、皆様のご支持を得て回を重ねております。弊社はこれからも、AVのハードウェアとソフトウェアは不可分のものとの考えで、諸政策を実施してまいる所存です。その一環として昨秋よりAVソフト宅配システム「そふとっきゅう」を始めました。創立30周年を機に、今後も今まで以上に時代を尖鋭にとらえ、新たな試み、新たな企画により、皆様のAVライフにご奉仕して参ります。

変わらぬご支援、お引立てよろしくお願ひ申し上げます。

第一家庭電器株式会社 代表取締役社長・星野 孝

●制作にあたって

日頃は、第一家庭電器をご愛顧いただき、誠にありがとうございます。本年11月で当社は創立30周年を迎えることとなりますが、その記念として本アルバムを制作いたしました。

DAM45は、制作を開始して以来、本年で15年目となりましたが、その間、誰にでも親しまれているオーケストラの小品集をオリジナル録音したいという希望を持ち続けていたところ、この度、世界的な巨匠サヴァリッシュ氏の指揮と、ヨーロッパ最古の歴史を誇る名門バイエルン国立歌劇場管弦楽団という最高の組み合わせで実現の運びとなりました。

このDAM初の海外オリジナル録音は、去る5月にゴールドCD2枚組としてVIPメイト会員の皆様には、世界に先がけて提供させていただきましたが、今回はアナログ・ディスク・ファンのご要望にお答えするべく、このアルバムを企画いたしました。

サヴァリッシュ氏は、NHK交響楽団の名譽指揮者として、TVを通じて有名な方ですが、日頃のレパートリーは大曲が多く、今回のような小品を指揮されることは殆んど無いようです。それをサヴァリッシュ氏が音楽総監督をされている、バイエルン国立歌劇場の来日公演(今秋)を記念して、DAMの希望による名曲集を、心よくレコーディングしていただいたことは、世界の音楽界でも異例なこととのことです。

その真撃で、品格の高い純音楽的な演奏は数あるオーケストラ名曲集の中でも、1・2位を争う名盤が完成したと自負している次第です。

録音も、ミュンヘンのヘラクレスザールで、ドイツ人スタッフにより2チャンネル・デジタル録音なされていますが、スケール感と奥行きのある豊かな音はヨーロッパ録音特有のものといえましょう。

ところで、DAMオリジナル録音は、アナログとデジタルの両方で録音していますが、今回は海外初録音ということもあって、契約等の事情で、残念ながらデジタル録音のみとなっております。(なお、1曲だけアナログ録音を録ることが出来たので、次の機会に発表させていただきます。)

レコード化にあたっては、デジタル・マスターを一度、アナログ・マスターにダビングしたものからカットティングしてみました。DAM本来のポリシーである、複製は極力しないという観点から、デジタル・マスターからダイレクトにカットティングしています。

又、このところアナログ・ディスクの技術進歩が止ったかに見えますが、DAMは東芝EMI技術陣の協力を得て、昨年、「徳永二男VIP45」で大好評を博し品不足となってしまった、ガラス原盤のクオリティ・アップに挑戦。前回のガラス原盤によるVIP45は、従来のアルミのラッカー盤に比べ、数々の長所がありました。ただ、ガラス特有の共振によると思われる高域のカラレーションが欠点として気になっていたのは事実です。今回は、ラッカーをガラス原盤の両面に塗布することで、その欠点をカバーしています。又、この春の「西島三重子VIP45」で採用したヴァンデンハル改造カッターも使用し、スーパー・アナログ・ディスクとして万全を期しました。

本来、デジタルで録音されたものは、LPよりCDの方がより、デジタル・マスターに忠実になって当然なのですが、一般市販のCDとLPの中にも何故かLPの方が音の良い場合がまれにあります。

このガラス原盤DAM45についても、一定水準以上の再生装置で聴いていただければ、スーパー・アナログ・ディスクの素晴らしい能力がおわかりいただけるのではないかと思います。(今回のことから、CDの製作プロセスには、まだまだ未解明なことも多いようで、今後、CDがよりデジタルマスターに忠実になるよう努力をしたいと考えています。)

今回は、30周年記念ということで、ディスクそのもののクオリティ・アップに加え、DAM45初の豪華カートンボックスとして、今回のDAM45・2枚組と、次回の頒布会で発表させていただく、残りのDAM45・2枚組(これは通常のダブル・ジャケットになります。)をあわせて4枚収納できるようになっています。

この「サヴァリッシュ・マドンナの宝石」のアナログ・ディスクは、多分国内で発売されることがないでしょうから(CDは、今秋英国EMI及び、東芝EMIから発売される予定)、DAM会員の皆様だけの、完全限定レコード全集になるのではないかと思います。

なお、本アルバムの制作にあたり、サヴァリッシュ氏をはじめ、バイエルン国立歌劇場、バイエルン放送協会、真鍋圭子さん、そして東芝EMI(株)並びに関係各位に多大なご協力をいただきましたことを厚くお礼申し上げます。

今後DAMといたしましては、アナログ、デジタル等方式を問わず、より良い音のソフトをお届けするべく、更に一層の努力をする所存ですので、今後とも皆様のご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。

DAM推進委員会 DAMPC

純粋な音楽の道を歩みつづけて、頂点で活躍を 続けるマエストロ。

——— 真鍋圭子

テレビ、ラジオを通して日本全国津々浦々、その名と顔を一番良く知られている指揮者は何といってもヴォルフガング・サヴァリッシュであろう。それもそのはず、彼は1964年の東京オリンピックの年に初来日して以来、67年からは毎年NHK交響楽団を指揮するために、もう20年以上、一年たりとも欠かすことなく日本を訪問しているからである。またこの間、ウィーン交響楽団とスイス・ロマン管弦楽団を率いて来日、名演奏の数々を聴かせてくれている。

1950年代の初めから、サヴァリッシュはカラヤンの次の世代を担う若きドイツ音楽界のホープとして、輝かしいスター街道を走り始めていた。1953年、30歳を迎えるまでに、ベルリン・フィル、ザルツブルク音楽祭、バイロイト音楽祭へのデビューを飾り、彼の名は一躍ヨーロッパ音楽界の話題を騒がらしてしまっただけである。カラヤンのレコーディング・プロデューサーとして名高いワルター・レッグが即座にサヴァリッシュをロンドンに招き、翌年からはフィルハーモニア管弦楽団とレコーディングを始めている。

日本に初来日した頃のサヴァリッシュは、ヨーロッパの主要都市、主要オーケストラ、主要劇場を制覇しつつ、まさに破竹の勢いの若きマエストロであった。ところが、サヴァリッシュの音楽観、人生観、性格は、すでにこのような音楽産業やマスコミの喧噪に一線を画し始めていた。極めて繊細な神経の持主で、謙虚でシャイなこの人は自分の意志なくマネージャーの思惑によって動かされたり、音楽産業の意図によりレパートリーを決定させられたりすることに嫌気を覚えたのだろう。ある時からサヴァリッシュは、これ等の世界に明らかに背を向けて一人歩きをするようになった。若くして頂点をきわめ尽くしてしまった人だからこそできる、“going my way”の精神である。そしてその“道”とは、雑念のない純粋な音楽の道であった。

5歳の頃からピアノを始め、音楽学校に入るまでに音楽理論、作曲をすべて個人レッスンで学んでいたサヴァリッシュは、戦後ミュンヘンの高等音楽学校に入学し、わずか一学期で卒業試験にパスしてしまう。すぐに隣のアウグスブルクのオペラハウスに就職したが、当時のミュンヘンの“新音楽”というサークルで、戦前は演奏することが許可されていなかったフランス音楽やロシア音楽の譜面を山のように積み上げて夜っぴいて演奏し続けたとのこと。とにかく、この人は音楽することが職業というより、趣味なのである。サヴァリッシュのピアノは、それだけでファン層がある程だが、彼はピアニストになろうと思ったことはなかったとのこと。この分野もただただ彼の音楽することの一部なのである。

彼がピアノを練習しているのを聞いたことがないと、彼を16歳の時から知っている夫人が言う。仕事が大変な時、リラックスするためにピアノを弾き、ピアノを弾き終るとどんなストレスも解消して、また上機嫌になるのだという。サヴァリッシュは現在、バイエルン国立歌劇場の総監督の地位にある。バイエルン州の主都ミュンヘンにあるナショナル劇場とその隣りにある旧レジデンス劇場、その裏手にあるマールシュタール実験劇場の三つの劇場の公演の総責任者であり、1,300人の従業員をかかえる地方自治体の一組織の運営責任者なのである。さらに、指揮者として音楽総監督の任務も兼任しているから、その多忙さは想像を絶する。

サヴァリッシュのミュンヘンでの毎日は、朝9時ぴったり彼の劇場の執務室に始まる。会社の社長と同じく、机の上に積み上げられた書類に目を通し、サインをする。控室は病院の待ち合い室のように、彼と話す機会を待っている人達であふれている。10時からは、音楽練習のある時は1時まで練習、1時からは新しい歌手のオーディション。これが無い時は続いて事務仕事。食事に帰宅、とんぼ帰りてまた劇場、そして仕事の続き。夜に彼が指揮をする時だけは、午後を休養と準備の時間としている。1971年からバイエルン国立歌劇場の音楽総監督を引き受けているが、それにプラスして今の“オペラ・ディレクター”の責を担ってからはや7年余り。こんな超人的ハードスケジュールをこなしているサヴァリッシュを内から支えているのは、自分の生れ故郷ミュンヘンのこの劇場、自分が子供の頃両親に連れられて来て指揮者になることを決めたこの劇場への愛情に他ならない。世界中の名だたる劇場で指揮をしてきた経験から、この劇場がそれ等より勝るとも劣るとは思われない。こんなに素晴らしい劇場で音楽できるチャンスがあるのに、何故他で指揮しなければならないのか、というのが彼の持論。

現在のバイエルン国立歌劇場は、サヴァリッシュのこれだけの愛情の成果が着実に実を結び、この劇場の歴史の中でも一大黄金時代を生み出している。18年間に渡る彼の指導のもとで、オーケストラは今やベストの状態にある。

これ程多忙のサヴァリッシュが世界の名だたるオーケストラからの招きを断り、毎年日本のために5週間もの時間を作っているのは世界の音楽界の七不思議だという。理由はただ一つ、自分の劇場を愛しているのと同様、彼は日本と、日本人とNHK交響楽団を愛しているのだ。レコーディング嫌いのサヴァリッシュが今回の録音を引き受けてくれたのも、これが日本の会社からの申し出だったからだと思う。レパートリーも、彼とこのオーケストラにとっては珍しいものだが、

スタッフとのミーティング風景



自分達の“音楽的遠足”と名付けて、セッションには念には念を入れ、自分達に十分納得のいくまで、脱帽する程丁寧に真剣に真面目に録音していた。録音完了後、サヴァリッシュは一言、「いい録音になったと思いますよ。」この自分に厳しい人が自らこんなことを言うのは始めてだとは、トーン・マイスターの弁。歴史的名盤が誕生したようである。



演奏する喜びがあふれるほどに伝わってくる、 そんなオーケストラ。

——真鍋圭子

ミュンヘンの宮廷楽団を前身とするこのバイエルン国立歌劇場管弦楽団は、現存するオーケストラ中最古のものである。ウィーンやドレスデンの宮廷楽団よりずっと早く組織され、1530年以來の団員の全メンバー表が今に至るまでずっと残っている。ヨーロッパ中を旅行して歩いたモーツァルトが、このオーケストラに接して感嘆したことも、父親への手紙に書かれている。彼がこの劇場、この管弦楽団用に作曲した名作「イドメネオ」は、オーケストラ・パートが難しく、当時の他の劇場では演奏できなかったという。ワーグナーの「トリスタンとイゾルデ」もこの劇場で初演されたが、やはりこのオーケストラの実力があってこそ初演可能となったのである。

宮廷指揮者としてここに就職することを熱望したモーツァルト、国王ルートヴィヒII世の熱烈な擁護のもとに4作品をここで初演できたワーグナー、ミュンヘン生れでこの劇場の常任指揮者を二度務めたリヒャルト・シュトラウス。この三人の作曲家の音楽の伝統は、このオーケストラの中で世代から世代へと受け継がれて今に至っている。

ブルーノ・ワルター、R・シュトラウス、カール・ベーム、H・クナッパースブッシュ、クレメンス・クラウス、ヨーゼフ・カイルベルト等の音楽総監督の後をついで、1971年以來ヴォルフガング・サヴァリッシュがこの伝統の継承に全身全霊を捧げている。

この管弦楽団はウィーン・フィルと同じく国立歌劇場付の楽団ではあるが、独立したコンサート・シリーズを持っていて、コンサート・オーケストラとしての活躍も目ざましい。二年前にカルロス・クライバーとの演奏旅行で日本でもおなじみである。サヴァリッシュが音楽監督になって以来、その水準は着実に高くなっていて、今やオペラのオーケストラと

してはウィーンと並び称される実力を持っている。ミュンヘンにオーケストラは四つあるが、このバイエルン国立歌劇場管弦楽団の特徴はその音楽監督の影響からか、いつも安定しているということ。そして、バレエでも現代曲でもいいかげんな演奏、手をぬいた演奏をしないということである。他のオーケストラに比べて演奏回数が比較にならない程多いにもかかわらず、このオーケストラの団員は、いつも演奏に対する喜びを持っているのが客席に如実に伝わってくる。これが、

このオーケストラの最大の魅力である。

このレコードの曲目は、彼等にとって耳慣れている音楽とはいえ、演奏するのは初めてのものばかり。細部の小さな不揃いまでサヴァリッシュに厳しく指摘されるので、一同緊張に次ぐ緊張。ブルックナーやブラームスの交響曲の録音の数倍も集中力を必要としたという。その結果、この録音は比較的地味な活動をしているこの管弦楽団の、ブリリアントな実力を示す素晴らしい名刺となることだろう。

ヘラクレスザール外観



リハーサル風景

ほとんどが初めて指揮をした曲でしたが、かなり良い録音ができたと思います。

——インタビュー：真鍋圭子



(M) ——今回の録音の曲目には、サヴァリッシュさんが初めて指揮なさるものも多かったと思いますが。

(S) ——ええ。私が指揮するのも初めて、このオーケストラが演奏するのも初めてという曲がほとんどでした。私達にとって最初の出会いであったにもかかわらず、良い録音ができたと思っています。これ等の曲目は、いわゆる「最高の水準で演奏されるべきポピュラー曲」で、私達がいつも演奏しているオペラやコンサートで取り上げられることはあまりありません。それだけに、日常これ等の曲を演奏しているオーケストラに比べて、より新鮮に緊張感と喜びを持って、先入観なしに取り組めたと思います。私達にとっては全く新しい凝縮された世界に入って行った訳で、とても楽しく演奏できました。

(M) ——録音の準備、そしてリハーサルにかなり多くの時間をかけられたように思いますけれど……。

(S) ——勿論です。私達の通常のレパートリーに入っていない曲が80%ですから。ただし、多くの作品は何処かで、何となく聞いたことのある曲なのですが、総譜を見て勉強しな



ければならないのは、どの曲でも同じことです。

(M) ——という事は、ドイツでも日常生活の中で時々これらの作品を聞く機会が多い訳ですね？

(S) ——「天国と地獄」や「売られた花嫁」の序曲、特に「売られた花嫁」は当然のことながら私達のオペラ・ハウスのレパートリーの中に入っていますから、よく知っています。しかし、ヴォルフ＝フェラーリの「マドンナの宝石」は有名ですが、私達の劇場のレパートリーには入っていません。聴衆がこの曲を愛しているのは知っていますが……。

(M) ——この作曲家はサヴァリッシュさんの劇場とはゆかりの深い作曲家だったようですね。

(S) ——ええ、彼はミュンヘンに住んでいたこともあり、私の劇場で2、3曲の彼のオペラが初演されています。その中の1曲「四人の田舎者」は、今もレパートリーに入っています。彼の作品の中では「マドンナの宝石」の中の2曲の間奏曲とワルツは特に有名で、オーケストレーションも上手く出来ていることから、管弦楽曲のレパートリーに独立して入れられるようになった重要な作品です。

今回の録音のレパートリーの中でヨーロッパではあまり馴染みのないものといえば、カバレフスキーの「道化師」組曲で、私も知りませんでした。例えば、「ザンパ」、「はげ山の一夜」、「ルスランとリュドミラ」等は、何かの折に放送で聞いたことのある作品です。「ザンパ」序曲は、私が10歳の時に、私のピアノの先生と一緒に連弾に編曲してあるのを弾いたことがあり、言わば思い出の曲です。

(M) ——サヴァリッシュさんはコンサートでこのような曲を指揮なさったことがおありですか？

(S) ——勿論です。カーニヴァルのコンサート、大晦日やニュー・イヤールの特別コンサートではこのようにいわゆるポ

ピュラーな曲とか、ヨハン・シュトラウスのプログラムを振っています。オペレッタも昔、アウグスブルクの劇場で専門に振っていたんですよ。

(M) ——今回のような曲目の方が、例えばブラームスの交響曲などと比べて録音により時間がかかったとオーケストラの人達が言っていましたか……？

(S) ——そうです。レパートリーが私達にとって未知のものが多かったですから、完璧なものに仕上げるのに時間がかかりました。例えば「ルスランとリュドミラ」のように精密さとブリリアントな演奏が命とも言える作品では、ブラームスの交響曲のように大きな流れのある作品よりも、仕上げるのに神経を使い、長時間を要しましたが、全体として、満足できる録音になったと思います。

インタビュー／真鍋圭子

真鍋圭子さんは在ミュンヘン10年以上の音楽ジャーナリスト。カラヤン、サヴァリッシュ、F＝ディースカウをはじめ、世界の著名音楽家と親密なお付き合いがあり、幅広く活躍をなさっております。



聴かせどころを心得たあざやかな棒さばきで、一曲ごとの味わいを上手に語ってくれる。

岡 俊雄



ヘラクレスザール外観

ここに録音されたディスクは、サヴァリッシュではめずらしいプログラムがずらりとならんでいる。そしてここに収められた曲目のすべては、それぞれが独立したおもしろさにあふれた名曲ばかりである。料理でいえばア・ラ・カルトのように1品ずつを、そのときの気分によってききたい曲だけをえらんでたのしみたい音楽でもあり、筆者のように1930年代から50年以上レコードをきいたものにとっては音楽のたのしさを知らされるオーケストラ名曲ばかりがずらりとならんでいる。通してきくもよく、そのときの気分によって、好きな曲だけを好きな順序にプログラミングしてきくのもよく——といった性質のものである。サヴァリッシュのようにオーケストラのコントロールにすぐれた能力をもった指揮者が、きかせどころを心得たあざやかな棒さばきで、1曲ごとの味わいを上手に語ってくれる。そこから生まれた小品集のおもしろさは、すぐれた録音によって最上のオーケストラ・サウンドで音楽をきくたのしみを倍増させてくれるのである。

PART1 SIDE1

1. スッペ:「軽騎兵」序曲

フランツ・フォン・スッペ (1819-1895) シュトラウス親子に代表されるウィーン・オペレッタ全盛期に活躍し、約150種の舞台作品を書いた。今日オペレッタとして上演されているものはわずかしかないが、彼の序曲は広く愛好されており、「軽騎兵」はその代表的なもので1866年の作。時のウィーンの人気詩人カール・コスタの作による軍隊生活を舞台にした喜劇。唳々たるファンファーレの導入部が魅力的。途中にハンガリー舞曲のチャルダスが用いられている。

2. エロール:「ザンパ」序曲

L-J-F・エロール (1791-1833) は、同時代のイタリアのロッシーニに対峙して、フランスのオペラ・コミック作曲家として名声を博した人だが、今日彼の舞台作品は序曲が演奏されているだけ。「ザンパ」は1831年の作で海賊を主人公としたグランド・オペラで大理石像が出てきたりモーツァルトの「ドン・ジョヴァンニ」と似ている内容。序曲はオペラの主要旋律がつぎつぎと現われる多彩な変化をもっているのが今日もひろくきかれている。

SIDE2

1. スメタナ:「売られた花嫁」序曲

ベドルジハ・スメタナ (1824-1884) はチェコスロヴァキアの生んだ最初の創造的な作曲家で、1866年作のオペラ「売られた花嫁」はボヘミアの農民生活を生き生きと描きだした民族的喜歌劇の最初の傑作であった。オフエンバックの影響が強いといわれているが、序曲の生命感のあふれるばか

りの躍動は音楽的にも素晴らしい。

2. スッペ:「詩人と農夫」序曲

スッペのオペラとオペレッタ作品は51篇。ほかの舞台音楽を加えれば200作をこえるといわれている。「詩人と農夫」は1846年に上演された第10作だがオペレッタではなく、K.エルマー作のコメディのための劇音楽で、劇中の音楽の主題を序曲に導入したもの。荘重な感じの序奏部から一転して嵐のようなアレグロから爽快な行進曲に転じ、最後は農民舞曲となる。

SIDE3

1. オッフエンバック:「天国と地獄」序曲

ジャック・オフエンバック (1819-1880) は、ドイツのケルン生れだが、その名が示すようにフランス系で、パリ音楽院でチェロを学び、20歳でオペラ・コミックのオーケストラのメンバー。30、31歳でフランス座の指揮者となり、ミュッセの詩につけた歌曲で名をなし、1853年にオペレッタの第1作を発表した。以来、ウィーンのヨハン・シュトラウス2世とともに19世紀後半のオペレッタの黄金時代を築いた。1858年に上演された「天国と地獄」の大ヒット以来、パリでオペレッタの王様の名声をほしいままとし、最晩年には「ホフマン物語」という幻想的なオペラの大作を書いている。「天国と地獄」という邦題は大正時代浅草オペラ全盛期にこの題で上演されて評判になったのでそれでおおようになっていっているが、原名を直訳すれば「地獄のオルフェ」。ギリシャ神話で有名な詩人オルフェが愛妻の死を嘆き黄泉の国から連れ戻しにゆくという話を主題にしているが、オペレッタ風に奇想天外な扱いがなされている。この序曲をひとときわ有名にしているのはフィナーレのギャロップの部分である。この音楽は19世紀末からパリ名物のカンカン・ダンスの音楽としてベル・エポックを象徴するほど世界的に有名になってしまった。(日本ではサイレント映画時代の追いかかけの場面で必ずといってよいくらいに使われて、明治・大正生れの世代の人たちには別な意味でなつかしい音楽にもなっている。)

2. ヴォルフ=フェラーリ:「マドンナの宝石」間奏曲

エルマンノ・ヴォルフ=フェラーリ (1876-1948) はヴェニス生れのイタリアの作曲家だがWolfをヴォルフと発音していることが示すように父親がドイツ人である。ヴェニスとミュンヘンを活動の中心としたひじょうな多作家だったが、軽いオペレッタ風の商品を得意としており、ロマンティックな旋律の美しい作品をのこしている。彼の舞台作品では「スザンナの秘密」(1909)と「マドンナの宝石」(聖母の宝石、マドンナの首飾り——としても知られる。1911) がとくに有名。

後者はヴォルフ=フェラーリの唯一の本格的な悲劇的オペラで、恋こがれる女性から聖母像の首飾りの宝石をもってくれば結婚するといわれた青年が盗みをおかす。事件が発覚し罪を悔いた青年は自殺するという物語。3幕から成るこのオペラは幕間に二つの間奏曲がはいており、ともに単独で演奏されることが多いが、第1間奏曲は感傷的な旋律の美しさでとくに愛好者が多い。

SIDE4

1. ベルリオーズ:「ファウストのごう罰」ラコッツイ行進曲

フランス・ロマン派音楽の始祖エクトル・ベルリオーズがゲーテの名作による劇物語(オペラ形式で上演されることもある)の大作「ファウストのごう罰」(1846)のなかでもっとも有名な曲。トランペットのファンファーレからはじまる素晴らしいこの行進曲はもともとハンガリー人が名将ラコッツイを讃える歌からとられたもの。ベルリオーズはこの行進曲をいれたばかりに原作にないハンガリーの場面にファウストを登場させるほどほれこんだ旋律であった。

2. シャブリエ:狂詩曲「スペイン」

フランス近代音楽の先覚者の一人エマヌエル・シャブリエ (1841-1894)の1883年の作。フランスの作曲家のスペイン趣味のさきがけをなした作。最初はホタ、第二はマラゲーニヤ、どちらも速いテンポの3拍子の舞曲。それからトロンボーンに力づよい第三のモティーフが出る(これはシャブリエの自作。前2曲はスペイン民謡の旋律をとっている)。その三つの素材が自由な幻想曲風に展開する華麗な曲。この旋律は「スケーターズ・ワルツ」で有名なエミール・ワルトトイフェル (1837-1915)のワルツ (1886)にも用いられている。両者ともタイトルは「España」だが、年代からもわかるようにワルトトイフェルがシャブリエから借用したものである。

PART2 SIDE1

※PART2については88年11月リリース予定。

1. グリンカ:「ルスランとリュドミラ」序曲

ミハイル・グリンカ (1803-1857) はロシア近代音楽の祖である。19世紀のロシアの音楽文化は西欧にたいして明らかに後進国であった。旅行好きで青年時代から西欧を訪れたグリンカは、進んだ西欧の音楽技法をロシア民族音楽の土壌に移植し、最初のオペラの傑作「皇帝に捧げし命」(現在は「イワン・スサーニン」と呼ばれている)を発表したのは33歳のときで、その6年後の第2作が「ルスランとリュドミラ」で、この2作によりグリンカはオペラ史上に燦たる名前を止める。キエフ大公の姫リュドミラをめぐる3人の求婚者が彼女を得ようとさまざまな冒険の試練を重ねリュドミラの愛人であった騎士ルスランが栄冠を得る波瀾万丈の物語。西欧で早くから序曲だけが広く評判を呼んでいたのはロッセーニ風の活力にあふれた音楽が聴き手を魅了したからである。主要主題旋律はオペラの劇中のアリアやモティーフからとられているが終結部に、下降全音階進行(低音部に)を用いている。50年後にドビュッシーが用いて有名になった技法の先駆的使用としてグリンカの独創を示す有名な例になっている。

2. ボロディン:中央アジアの高原にて

アレキザンドル・ボロディン (1833-1887) は、グリンカの没後、19世紀後半にロシア音楽を確立させた5人組(国民楽派)のひとり。本職は医化科教授の公職の余暇に作曲をし、大作オペラ「イーゴリ公」や交響曲、室内楽などの傑作をのこしている。ボロディンは東洋的なものが大好きであった。1880年アレキザンドル2世在位25周年にあたり、12人のロシアの作曲家が、ロシアを描く主題の作品を書くことになったとき、ボロディンは、近東ロシア領を行進する軍隊の描写を主題にえらんだのがこの曲で、タイトルに「管弦楽的スケッチ」と附記されている。荒涼たる砂漠の情景がヴァイオリンの高音Eの持続からうかびあがってき、ロシア軍に護衛された隊商が遠くから来、また去ってゆく様子が音楽として描かれる。クラリネット独奏のロシア風の歌と、そのあとに出るイングリッシュ・ホルンの東洋的旋律の美しさがとくに印象的である。

SIDE2

1. ムソルグスキー:禿山の一夜

国民楽派最大の創造的作曲家モデスト・ムソルグスキー(1839-1881)の1877年の作。彼は早くからゲーテの「ファウスト」のワルプルギスの夜のような奇怪な妖怪の容姿の音画化を意図したスケッチを書いていた。のちに5人組の仲間からのすすめで「ムラダ」という歌劇にその情景をもちこもうとして

果たさず、彼の死後、リムスキー=コルサコフによってオーケストレーションが完成1886年に初演された。キエフの町のちかくにある禿山(トリグラフ山)にまつわる伝説によったもので、聖ヨハネ祭の夜、地下からさまざまな悪霊が現われ、闇の神への讃美と饗宴をくりひろげるが、夜明けの鐘とともに彼等は退散する。音楽はその物語の完全な標題音楽である。

SIDE3

1. カバレフスキー:組曲「道化師」

ドミトリ・カバレフスキー (1904-1987) はショスタコヴィッチ、ハチャトゥリアンなどとならぶ、ソ連を代表する作曲家。1940年にM.ダニエルの児童劇「発明家と道化師たち」のための劇音楽を書いたが、そのなかの10曲をえらんで演奏会用組曲とした。劇は旅芸人たちが町の広場で公演するさまざまなスケッチからなったコメディ。組曲は、Iプロローグ、IIギャロップ、III行進曲、IVワルツ、Vパントマイム、VI間奏曲、VII叙情的なシーン、VIIIガヴォット、IXスケルツォ、Xエピローグのそれぞれがみじかい、たいへん機智とノスタルジーにあふれたもので、カバレフスキーの代表作となっている。

2. プロコフィエフ:「三つのオレンジへの恋」行進曲とスケルツォ

ショスタコヴィッチとともに20世紀ロシアにおける最大の作曲家セルゲイ・プロコフィエフが1919年に書いたオペラ(初演は1921年シカゴ)から6曲をえらんだ組曲は、彼のオーケストラ曲の代表作のひとつになっている。ここで演奏されているのは、組曲でもとくに有名な第2、3曲である。この頃、プロコフィエフは革命のはじまったロシアから出て日本経由で渡米、1933年にソ連に復帰するまでパリを中心に活躍していた。この頃の彼は20世紀の前衛的スタイルを強烈に打ち出していた時代で、シャープな音の扱いの巧みさでは第一人者であった。



ヘラクレスザール外観及び内部

SIDE4

1. リムスキー=コルサコフ:スペイン奇想曲

国民楽派5人組のなかで最年少だったリムスキー=コルサコフ(1844-1908)は海軍士官であったが、29歳のとき退役して音楽に専念し、近代管弦楽法の大家として世界的に宣伝された。彼の華麗なオーケストレーションを示したのが1887年作の「スペイン奇想曲」88年作の「シェーラザード」である。「奇想曲」はとくに標題的な意味はなく、全体が五つの部分から成っている。アルボラダ——変奏曲——アルボラダ——シェーナとジブシーの歌——アストゥリアのファンダンゴで、それぞれスペイン的なタッチが、千変万化といってよいほど多彩なオーケストレーションで描き出されている。

惜しみなく時間を費やし、入念な仕事 成されたといえる。

——里見清司

バイエルン放送協会との共同制作で、レコーディング企画が実現されたのは今回が本邦初であり、この画期的な仕事は1987年11月、ミュンヘンにて行なわれた。マエストロ・サヴァリッシュ指揮～バイエルン国立歌劇場管弦楽団の演奏で、まさに世界のメジャー・レーベルが手がける内容を我々サイドで具体化したのだ。

数々の打合わせを済ませ録音当日がやってきた。ホールはヘラクレスザール。長方形につくられたホールでコンサート会場としては世界中規模クラス（1300人程度のキャパシティー）の代表的な存在であり、収録スタジオとしてもバイエルン放送（BR）が常設のコントロール・ルームを置いてあることでも解る通り、数々の名レコーディングを生んでいる。

今回の録音スタッフはBRの面々でトーン・マイスター（プロデューサー）がウィルヘルム・マイスター氏、バランス・エンジニアはハンス・シュミット氏が担当して下さった。彼らは朝6時半にホール入りし、マイク等のセッティングにとりかかる。ステージに椅子が並べられると日本の様に、マイクスタンドを立てマイクを取り付けるのではなく、天井からマイクケーブルを各々降ろす仕組になっている。ステージ上ではシュミット氏がトランシーバーでマイクケーブルの高さ等の調整をするためリモコンでオペレーターに指示を出す。前後の位置はホール2階手摺りから針金を張って調整する。全部で22本あったが2時間位で一応のポジションが決定、長年の経験で大体の位置は決っているようだ。

今回の録音はワンポイントマイク方式でなく、メインマイクを中心にしたマルチマイク方式、9時少し前、楽団員が集まり始め9時ジャスト、マエストロ・サヴァリッシュが現われ「詩人と農夫」のリハーサルに入る。暫くホール内でリハーサルを聴く、音がふくよかに湧き出てくるようであった。日本でこのような音は聴いた事がない。ホールトーンは実に透明で素晴らしい。

その後ホール客席後方奥の最上階にあるコントロール・ルームに戻る。まずシュミット氏がメインマイクで全体の響き、音色、バランスを慎重に聴き、各パートに立っているマイクのフェーダーを上げ始めてバランスをとっていった。マイスター氏より木管の音像を少し後にさげるようにとの事で、即座にシュミット氏はデジタル・ディレイにその音と元音をミックスする方法を用いた。この間、共同制作者としてマイスター氏は我々に、サウンド、楽器のバランスetc. OKかとの最終確認をされたが勿論文句のあろうはずがない。

いよいよ本番が始まる。マイスター氏は、マエストロ・サヴァリッシュに信頼されているだけのことはあり、実に的確

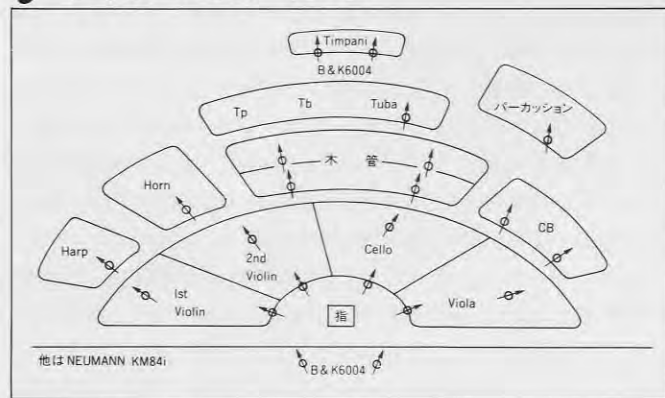
で細かい指示を出し進行させている。要所で楽器名の伝達を与えるとその通りシュミット氏は各々のフェーダー処理を行っていた。本邦のクラシック録音ではフェーダーはあまり動かさないのが定石ではあるが、録音するにあたり定石にこだわらず関係者の合意のもとであればこの方法も良いのではないだろうか。

以前、私はアメリカで、あるメジャー・レーベルのオーケストラ録音に立ち会う機会に恵まれたのだが、その際短い時間帯の中で、最良の音源を作るといふ、現在世界のクラシック業界における典型例とその厳しさを垣間見た。ところで今回のレコーディングに関しては、演奏者が初めてのレポーターとは云え、先の録音の約3倍の時間を費やし、入念な仕事成されたと思う。特にマエストロ・サヴァリッシュのたぐいまれなヴァイタリティーと判断力、そしてあらゆる瞬間ごとに、真実の音楽的解釈をと奮闘して下さった成果が如実に表われていた。まさしく、ベストと云える録音が行なわれたのである。



DMR2000及びPCM1610

♪ マイク・セッティング



他は NEUMANN KM84i

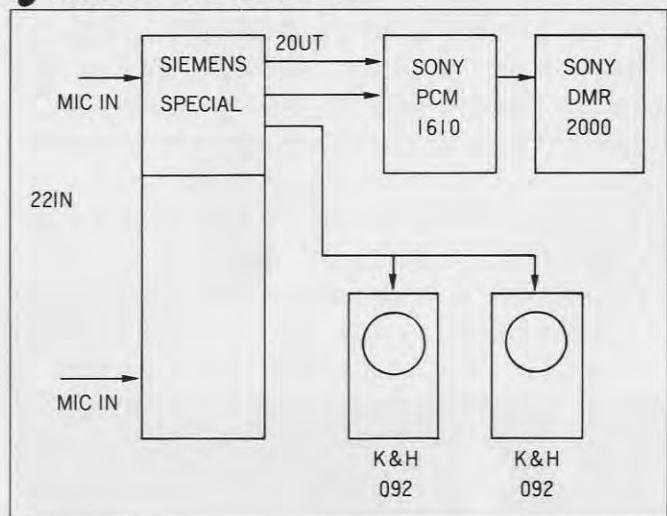


コントロール・ルーム



左) NEUMANN KM84i
右) B & K 6004

♪ 録音ダイアグラム



Recording Data

Console: SIEMENS・32INPUT 20UT
Speaker & Amp: K&H・TYPE 092
Digital Master Recorder: SONY・DMR-2000
Digital Audio Processor: SONY・PCM-1610
Mic: B&K・6004
NEUMANN・KM84i
Digital Delay: EMT・445
LEXICON・MODEL 102

DAMハイクオリティレコードについて

音楽パッケージもこのところ DAT をはじめ CD-V、CD-I 等、次々に新商品の開発が具現化し、ますます多品種化の傾向を呈しており、音楽プログラムに対するアプローチの仕方も更に多様化、より個性化すると思えます。

今やアナログディスクは、完全にコンパクトディスクにその主流の座を奪われ、100年以上続いたアナログディスクと短期間のうちに世代交替したコンパクトディスクの優位性は、まさしく脅威的なものを感じます。しかし、話題に乏しいアナログディスクとはいえ、アナログならではの魅力と常に音の限界にチャレンジしても余りある可能性を秘めているディスクレコードは、尚一層興味と期待の大きいものがあります。DAMレコードは、一作毎に、マスタリングからメッキ、プレスに至る製盤の最新技術の導入を図り、常に限界とその可能性を求めて来た経過がありますが、VIP『ロマンス／徳永二男』でのガラス原盤を素材としたラッカーマスターを初めて採用した超重量200gレコードは、真に現状のアナログディスクの市場性とその背景を考えれば、一つの完成領域に到達したディスクであったと確信しております。今回の DAMレコードの特長は、その最高水準と確信する超重量200gレコードで採用した製造ノウハウと、更にコンパクトディスクやビデオディスクの周辺技術を導入することはもちろんのこと、特に新しい測定評価技術を採用することで従来とは別な観点での理論解析により音質改善の対策を進めて来た点にあります。一部の工程では、生産性を度外視した相当なリスクを覚悟で、手造り的な製造方法をとったり、まさしく音質重点主義で進めたアナログディスクの総力を上げ、チャレンジした私共の制作ポリシーをきつと皆様は理解して頂けるものと思えます。

今回の特徴は前回採用したものと同様オランダのカートリッジ研究者であるヴァンデンハル (Vandenhul) 氏に依頼して、ノイマン社製カッターヘッド (SX-74) のドライブコイル、フィードバックコイルを、MC-OFC (Mono Crystal-Oxygen Free Copper) 素材で手巻きした改造ヘッドを採用しました。ケーブル、ワイヤー素材による音質の違いについては、各種各様に論じられ興味ある点ですが、アナログディスクに残された貴重な試みとしてトライしてみました。

ディスク・レコードの平面・平滑性は音質へ影響する重要なファクターであり、高密度なハイレベルカットになればなる程音質や性能に大きく要因します。今回のガラス盤ラッカーマスターを採用したのも、平面、平滑性での優位性もさることながら、メッキ工程で温度変化に基因するストレスはアルミ盤にくらべガラス盤の方が格段に秀れておりディスクの基本性能であるブリエコー、ポストエコー現象を従来のアルミ盤の1/3~1/5まで改善致しました。その為、クロストーク、セパレーションの良さは複雑なオーケストラ・サウンドを一段と高解像度に再現し、ヴァンデンハル氏の手製による改造カッターヘッドのもつサウンドの魅力をも合わせ充分に御堪能いただけるものと思えます。

アナログディスクの徹底した性能分析より、ビデオディスク

成形の周辺技術を応用したプレス金型を新しく開発することからスタートした超重量200gレコードの製造技術とその設備を利用し、今回の150g重量レコード用プレス金型の精度や鏡面性を対処することで、ディスク面のストレス (歪) を最小限に押さえ込み、忠実な音溝波形を成形しています。更に今回の特徴は、メッキ工程にあり、これはコンパクトディスクの製造ノウハウと設備を採用して、クリーンルーム処理を行い、従来に無い超精密な電解メッキにより、ラッカー音盤の音溝を忠実に転写し、雑音の少ないS/N比の良い原盤を作成しました。

今回は特にディスクの面精度を改善する為に、メッキ工程に於いて、スタンパー作成は高密度な電解メッキ方法と研磨仕上げとによって、優れた平滑性が得られています。

これらの改善により、真円性の大幅な向上とワウフラッターの影響を極力減少させることで、低周波数帯域による変調が少なく、全体の分解能が改善され、楽器の音程がより安定感のある響きと、強奏部での解像力も一枚ペールを剥したような鮮明さは、アナログディスクの魅力ともいえます。又、音像の実存感もまさしくマスターテープのもつオリジナルサウンドの世界だと思えます。

御存知のように、ステレオの音溝は、水平振幅は左右信号の和 (L+R)、上下振幅は、左右信号の差 (L-R) として録音カッティングされており、DAMレコードで代表されるハイクオリティレコードは、通常のレコードより+5dB程もハイレベルでカッティングされ、音溝幅の変化は、20 μ ~280 μ (L-R) 程に達する位、高密度化しております。

例えば複雑な音溝になればなる程、その再生時に於いてはカートリッジの振動エネルギーが逆にレコード盤を烈振させ、レコードの固有共振によってその振動がカートリッジヘリアクションされ、クロストーク、セパレーション、歪等さまざまな音質劣化の要因になると考えられます。

共振はマスとコンプライアンスの積で表わされますから、レコードの固有共振はレコード重量を重くし、マス成分をコントロールすることで音質の影響の少ない帯域へ共振周波数を下げ、低域特性の改善を図っています。

この様な高密度レコードでは、特に安定度の高い盤質が必要とされますが、従来から高品質用として開発した材料をベースに、新タイプの配合剤、熱安定効果の高い安定剤の組み合わせにより、一層ゲル化性の改善を図り、更に新タイプ帯電防止剤による静電除去効果とあいまってきわめて安定度の高いS/N比の良いレコードを提供することが出来ました。

以上のように今回の DAMレコードは、現状の最高水準の製盤プロセスを経て制作されております。

デジタルサウンドとの出会いも最近は多くなって来ていますが、是非、このアナログディスクのもつサウンドの魅力も充分に感じ取って頂ければ幸いに思えます。

(開発技術部 原 清介)

30センチ45回転レコードの取扱いについて

このレコードは、通常の33 $\frac{1}{3}$ 回転レコードと変わった点はありませんが、念のため次のことに御注意下さい。

- (1)オートプレーヤー、オートチェンジャーでも使用できますが、ある特殊なものでは完全な自動演奏が出来ないこともあります。このような場合、手動方式に切替えてお取扱い下さい。
- (2)回転が速くなるために、レコードの反りの影響が33 $\frac{1}{3}$ 回転にくらべて出やすくなります。レコードの保管、取扱いには充分注意して下さい。
- (3)再生する部屋の温度が低いと、カートリッジが正しく作動しないことがありますのであらかじめ室温を15 $^{\circ}$ C~20 $^{\circ}$ C位に保って下さい。
- (4)再生時には特にアームのラテラル、インサイドフォースのバランス、及び再生針の磨耗状態、針圧 (メーカー指定の重い方にセット) には充分気を付けて下さい。
- (5)このレコードは、ハイクオリティのオーディオ・チェック・レコードのため、カートリッジによってはトレースがむずかしい場合があります。

レコード材質——プロユース材料使用

カッティング・データ

| | |
|-------------------------|----------------------------|
| Cutting Date | : 12 & 13 May 1988 |
| | STUDIO TERRA, CUTTING ROOM |
| | Toshiba-EMI |
| Digital Master Recorder | : Sony BVU-200 |
| Digital Audio Processor | : Sony PCM-1610 |
| Drive Amplifier | : Neumann SAL-74B |
| Cutting Lathe | : // VMS-80 |
| | Diamond Cutting Stylus |
| Cutter Head | : Neumann SX-74 |
| | (Vandenhul Version) |
| | Non Limiter |
| | Non Equalizer |
| Lacquer Master | : Glass Lacquer Master |

スタッフ

| | |
|--------------|------------------------------|
| 総合プロデューサー | : フリードリッヒ・ウェルツ (バイエルン放送協会) |
| | 小山正敏 (東芝EMI) |
| プロデューサー | : ウィルヘルム・マイスター (バイエルン放送協会) |
| | 里見清司 (東芝EMI) |
| バランス・エンジニア | : ハンス・シュミット (バイエルン放送協会) |
| サウンド・エンジニア | : 原 清介、田口庄司 |
| カッティング・エンジニア | : 竹内昭五 |
| フォトグラファー | : アンネ・キルヒバツ／小山正敏 |
| ジャケット・デザイン | : 株式会社グラバー企画 |
| 録音年月日 | : 1987年11月10、11、13、23、24、25日 |
| 録音場所 | : ヘラクレスザール、ミュンヘン |
| 制作協力 | : 株式会社サンデュエット |
| 企画・制作 | : 第一家庭電器株式会社 DAMDC |
| 製造 | : 東芝EMI株式会社 |

The Jewels of The Madonna

WOLFGANG SAWALLISCH / BAVARIAN STATE ORCHESTRA

PART 1

Side 1

- 1 "LIGHT CAVALRY" OVERTURE (SUPPÉ)..... 6'43"
- 2 "ZAMPA" OVERTURE(HÉROLD)..... 7'42"

Side 2

- 1 "THE BARTERED BRIDE" OVERTURE (SMETANA)..... 6'29"
- 2 "POET AND PEASANT" OVERTURE (SUPPÉ)..... 9'21"

Side 3

- 1 "ORPHEUS IN THE UNDERWORLD" OVERTURE(OFFENBACH)..... 9'24"
- 2 INTERMEZZO from "THE JEWELS OF THE MADONNA"(WOLF-FERRARI)..... 3'52"

Side 4

- 1 RAKÓCZY MARCH from "THE DAMNATION OF FAUST", OP.24 (BERLIOZ)..... 4'29"
W/Peter Wöpke(Cello solo)··· Side 2-2
- 2 ESPAÑA(CHABRIER)..... 6'27"
W/Luis Michal(Violin solo)··· Side 3-1

PART 2

Side 1

- 1 "RUSSLAN AND LUDMILLA" OVERTURE(GLINKA)..... 5'19"
- 2 IN THE STEPPES OF..... 7'21"
CENTRAL ASIA(BORODIN)

Side 2

- 1 A NIGHT ON THE BARE MOUNTAIN(MUSSORGSKY)..... 10'50"

Side 3

- THE COMEDIANS, OP.26(KABALEVSKY)

- 1 PROLOGUE..... 0'58"
 - 2 GALLOP..... 1'29"
 - 3 MARCH..... 1'08"
 - 4 WALTZ..... 1'12"
 - 5 PANTOMIME..... 1'41"
 - 6 INTERMEZZO..... 0'50"
 - 7 LITTLE LYRICAL SCENE..... 1'15"
 - 8 GAVOTTE..... 1'34"
 - 9 SCHERZO..... 1'38"
 - 10 EPILOGUE..... 1'56"
- from "THE LOVE FOR THREE ORANGES"
OP.33(PROKOFIEV)

- 11 MARCH..... 1'34"
- 12 SCHERZO..... 2'24"

Side 4

CAPRICCIO ESPAGNOL, OP.34
(RIMSKY-KORSAKOV)

- 1 I : ALBORADA..... 1'14"
- 2 II : VARIAZIONI..... 4'27"
- 3 III : ALBORADA..... 1'18"
- 4 IV : SCENA E CANTO GITANO..... 5'09"
- 5 V : FANDANGO ASTURIANO..... 3'23"
w/Luis Michal(Violin solo)··· Side 4-1.3.4.5



ヘラクレスザール外観

Produced by DAIICHI-KATEIDENKI CO.,LTD.

Manufactured by TOSHIBA-EMI LTD.

表紙写真：NHK交響楽団提供

Made in co-production with Bayerischer Rundfunk/Photo by Anne Kirchbach

DAMP
STEREO DOR-0157-58/DOR-0159-60